

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072300203		
法人名	有限会社 若大河		
事業所名	グループホーム吉井マリル		
所在地	群馬県高崎市吉井町吉井川768-1		
自己評価作成日	平成30年7月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成31年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設側とご家族様、お互いが気兼ねせずご利用者様の一番大切にするべきことはどんなことなのか話し合えるよう、日頃から日常会話も含めお話しさせて頂いています。家族間で話し合いが難しいときは施設の間を管理・ケアマネを含めて話し合いも行っていきます。施設ではありませんが、施設の雰囲気を出るだけ消せるように環境作りに努め、職員は出来るだけご利用者様の近い存在になれるように心掛けています。日常生活の支援では動作を細かくとらえ、できないところだけを少しお手伝いする気持ちで携わり、労いの言葉を使い身体能力の保持や意欲向上に努めています。できる限り入所から最期までという気持ちで利用者様、ご家族様とかかわっていきたくと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

保育園の隣に立地しており、時々保育園からボールが入ってきて拾ってあげたりなどの関係性が築かれている。買わないで作る！なんでもやってみる！をテーマに、創意工夫して手作りの物を活用して日々のケアを行っている。そうしたなか、LINEを使って利用者の家族との連絡ツールにしたり、外出先の利用者の動画をホームのテレビとつなぎ、リアルタイムで外出先の様子を残っている利用者と一緒に楽しむ機会を作ったりしている。災害に備え、職員休憩室には災害時の持ち出しグッズがスーツケースに準備され、入り口には利用者の首に下げる避難場所と施設名が書かれたプレートを準備している。看取りは職員全員で関わり、家族も職員も安心できるような現在の状況に合わせた観察項目や処置内容を部屋に掲示している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に付きやすい場所に掲示している。また管理者が常にその理念を口に出し職員に伝えている。そのひとらしさとは何か難しいことではあるがらしさとは変化していくとも考えている。	地域社会の中で「その人らしい生活を送れる環境づくり」を理念として掲げ、この人だからこれという利用者の特徴を捉えて、情報の共有を行っている。性格や認知の程度、日々の体験が違う利用者に合わせて関わりを目指している。	理念のその人らしさを職員ですりあわせ、大切にするポイントをさらに明確にしていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への関わりとして地域清掃への参加。	開設当初から、関わりのある人たちとのつながりを大切にしている。カラオケに月に1回地域の方が施設に來たり、中学生の職業体験を受け入れたり、区費を治め、廃品回収に貢献したりしている。地域のお祭りの山車が、施設の前でお囃子を披露してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口として活動している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	掲示板という形で施設前、近隣の壁(許可有)に掲示物を貼っていたが強風などで飛んでしまい近隣にご迷惑をかけてしまい新しい方法を模索中	運営推進会議を定期的に行っており、近所の方が2名毎回参加していた実績がある。「マリル通信」に会議の開催案内や議事録を掲載し、請求書とともに各家庭に送っている。最近の情報をLINEで届けている方もいる。	運営推進会議へのさらなる家族の参加を図るための取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所としてわからない事や疑問に思ったことなど市町村担当者さんに相談させていただいています。また丁寧で早い返答をいただけるので心強いです。また安心センターができたことで事業所として安心して	市は困ったところを助けてくれるところであり、わからないところを教えてくれるところと考え、生活保護の方も入居しているので、行政上で分からないことなどを相談して協力関係を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	声掛け一つでも身体拘束に繋がっていると話や、拘束なのか判断が難しいときは自分が同じ状況下でされたらどうなのか、考えるよう指導している。年2回身体拘束の社内勉強会をしている	身体拘束のセミナーに参加している。職員ごとに勉強会のファイルがあり、配布された資料を綴じている。学習後は身体拘束について職員個々の意見をまとめて全員に配布してすり合わせを行い、職員意見の統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員との日常会話の中で、事件事故のニュースや事例集を用いて虐待防止を訴えている。また利用者さんの様子や職員の様子にも変化がないか目を配る努力をしています。入浴時の身体観察も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業・後見人制度を活用されている方がおり、実際に関わったことで学ぶことが出来ました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は分かり難い文面に関しては事例を出すなど、契約内容を分かり易く説明を行なっている。またその場での契約はせず、契約書を一旦家族に持ち帰って読んでいただき契約前に再度疑問点を伺っています。解約・改定においても同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部相談の場所・連絡先など書面での提示をしている。ご家族の面会時、質問や要望・意見など言いだせる環境や時間を作るように管理者や職員が配慮している。マリル会・クリスマス会で直接家族と話し合いをした。	車いすで花の鑑賞がしたいとの希望に、ベンチを置き通路を作った実績がある。面会や支払いに家族がお見えになった時には、親近感を持っていただけるような会話を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	シフトの仕組みや配置などは職員から意見を聞き多数決などで決めたりしている。職務の効率化を図るために職員からの提案も考慮して運営している。	管理者と事務長がスケジュールのサイクルに入っていることから、スタッフと一緒に仕事をする機会があり、会話のなかで聴取して、希望をかなえられるよう心がけている。最近では、職員の要望で、WiFiの接続や棚を購入した実績がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記に同じ、また職員と話しやすい環境・関係を保つ努力をしている。個々から話を聞き就業規則一部改正を行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修がある場合参加の希望取っているまた個々の力量や知識の確認などするため職員に問いかけたり職務の様子を観察し足りないことに関しては指導している。意見ノートの活用。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	加盟している地域密着型サービスでの研修参加をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と直接話したり様子を観察。また日常会話の中から本人の希望や悩みを聞きだしたりしている。常に安心できる言葉掛けを心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が緊張感を軽減できるよう日常会話を交えたり事例を上げて話すなど話しやすい環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時にご家族と介護についての相談し、本人との面会時に主訴を聞き出すようにしている。主訴がない場合はどうしたら穏やかな表情で過ごせるかを考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活の中で利用者さんが出来る事など一緒に行い、時には職員が利用者さんをお願いして手伝っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には「ご家族様しか出来ない支援がある」ということを話している。月に一度は面会をお願いしている。年に2度一緒に食事をしたり、共同作業を行える時間を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人・ご近所様の面会があったり、馴染みの場所へのドライブ、日常会話の中で馴染みの深い話をするなどに努めている。	利用者がほっとできる場所が生活できる場所と考え、利用者の友人や近所の方が面会に来る。また、近所の美容室に出かけたり、お墓参りを希望される方には家族にお願いしたりしている。墓じまいの必要のある方に、お坊さんに来ていただき手続きをしたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や障害について理解し、利用者さん同士ではなかなか馴染みにくいので職員が話題をふったり間に入るなどしてお互いの存在を認められるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先への面会や、施設イベントのお知らせを送ったりしている。退所後もご家族との交流が続いている人もいます。退所されたご家族からの紹介で入所されたり、相談が持ち込まれることが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の暮らしを尊重するよう、日常に寄り添い言葉に出来ない部分を拾う努力をし、出来る限りその人らしさを支援するよう考えている。	利用者全員の生育歴を、忘れていた記憶があるため、定期的集めている。言葉の出ない人でも耳元で声をかけたり、声の出し方や口の動かし方で意思を伝えて聴取し、職員全員で情報共有して把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、また面会者から情報を得よう努めている。聞き取り調査表もあるが活用しきれていない点もあるので聞き取り方また書式も工夫していきたい。生活歴はご家族も分からないことが多く本人頼みになってしまうが、言われたことは本人の事実と受け止め考慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	23に同じく努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者またはケアマネが介護計画を立てる上で本人・職員に聞き取りを行う。またご家族様の思いも反映できるよう支払い時に一か月の様子を報告し話し合っている。	個々の情報は、直接ケアマネージャーに伝えている。日々の記録「支援シート」には、日々の記録・健康面の留意点・食事・移動方法・排泄・バイタルの項目があり、利用者個々で内容が異なっている。ケアプランの項目には実施後にチェックをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録などはその様子が分かりやすいよう記録するよう心掛けている。また記録に目を通し不十分と感じる時には管理者が指導している。問題点で気付いたことなどは職員間の連絡帳に記載し解決できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りではあるが、ニーズに対応できるようご家族と話し合いながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同年代の方と話し合ったり、同じ時間が共有できるよう地域の長寿会の方との交流を続けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康状況が把握しやすくまた継続した医療を受けられるよう支援している。必要があれば往診時家族を呼び医師との話し合いの場を設けている。2週間に一度の往診。受診記録や医師の指示を記載している。	入居時に、かかりつけ医の確認をして相談し、町外の場合は家族に受診対応してもらっている。診療所(内科・眼科)の先生が、2週間に1度往診に来ている。歯科は、定期的に近医が往診している。近くに整形外科や耳鼻科のある立地環境にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが職員がバイタルの異常や症状の出現など変化に気がついた時は管理者または准看護師に報告し適切な医療を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院への付き添い・サマリーの提出をし、入院中・退院時は病院との情報交換に努めています。ご家族の希望によりご家族に代わって説明を受けることもありませす。緊急時サマリーの作成。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをご希望されるご家族がほとんどです。早い段階から、ご家族には終末期のあり方、支援の方法など話している。また他者が他界されたときは推進会議や家族会などでの報告もしている	入居時から家族の意向を伺い、「看取り介護への流れ」に沿って看取りまでの説明を行っている。終末期には、観察項目や行動の基準を居室の壁に貼り、状況の視覚化を行っている。看取りの実績をもち、職員への看取りの教育は体験を通じて、役割を決めて看取りにかかわっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は救急車を呼ぶことになっている。救命救急の研修を受講を勧めている。看取りの場合については指示書が作成され、訪問看護と連携を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難訓練は年2回行われる。避難訓練後は反省会を行っている。推進会議でも話し合っている。回覧板で協力者を求めており、災害時協力委員が発足されている。	職員休憩室に、避難グッズの入ったスーツケースが置かれている。休憩室入り口には、施設名と避難場所が書かれたネームプレート(名前の記入があり)を用意している。災害時の近所の方との間に協力体制は築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生活状況や認知症状にあった話し方を努力している。	文字と絵の入ったカードがあり、人前で聞かれたくないことの伝達時に使用している。字が読めなくても絵でイメージが伝わり、行動に移せている。入浴時は前をタオルで覆い、尊厳を大切に羞恥心に配慮しており、排泄時も個々の動きを察知して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや作業など個々の個性が出るよう選択できる様努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの生活パターンを把握するよう努力しその人にあった生活が送れるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪を希望される方には髪型など聞いたり、衣類なども好みに合うよう支援している。本人に似合う髪飾りやスカーフなど施設から本人へアプローチし支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在キッチンに入って調理・洗いつけをされる利用者さんはおりませんが、配膳下膳・食前食後のテーブル拭き、食材の下準備などは行っていただいています。また料理レクとしておかず作りやおやつ作りなどみんなで楽しめるよう支援しています	前日のメニューと被らないことを基本にして、食事は、職員が作っている。食材は購入し、近所の方から野菜の差し入れがある。利用者から日々のケアの関わりで聞き出し、希望メニューに対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に記録票があり食事量や水分摂取量に気を配り、疾患に注意しながら工夫して食べられるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り自分で歯磨きをしていただき仕上げをお手伝いしています。本人の様子を観察して必要であればご家族に相談し訪問歯科をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ自立できるよう衣類の工夫をしたり、良いタイミングで排泄の支援ができるように努力しています。排泄時には焦るような声掛けをせず羞恥心に配慮し見守ります。また皮膚疾患にも気を付けています	文字と絵のカードを使ったり、ジェスチャーで伝えたりして、トイレ移動している。こまめに誘導することで、リハビリパンツから布パンツに移行できた実績を持っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をつけ便秘気味の方には食事に気をつけたり腹部マッサージやトイレで腹圧がかかる支援をしています。便を観察し医師に相談している。(下剤の種類など)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は職員と介護状況から三日に一度ですが、希望や健康上の理由で違う日に入られる方もいます。入浴できない日は全員陰部清拭をしています。入浴中は個々にお湯の熱さの希望があるので聞きながら温度調節を行っています。	入浴は2人の職員で対応して、浴槽につかれるように支援している。膝で支えて湯船に入ってもらったり、浮き輪を使ってゆっくり入ってもらったり、大きなタライで入浴を楽しんでもらったこともある。本人の好みの湯の温度に留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調をみて必要であれば仮眠を促したりしています。夜間ねつけない人や早朝目が覚めてしまう方には無理に寝ていただくのではなくお話をしたりいっしょにテレビを観たりお茶を飲んだりお手伝いなどしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	准看護師が医師の指示を受け薬の副作用など理解し、飲み合わせてはいけない食物や、投薬するタイミングなど職員に伝えています。職員は薬をきちんと飲み込むまでの支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体で行うレクリエーションもありますが、各作業を分担し協力して1つのものづくりをしたり、個々の趣味に合った楽しみを行えるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	庭を整備したことで施設外は難しくても庭でご家族と過ごす時間が増えたり、ご家族と話し合い短い時間でもご自宅へ戻れるよう支援しています。最近は外出を嫌がる方が増えてるので声掛けやタイミングを考えています	3~4人ずつに分けてドライブに出かけて、季節の花の名所に出かけている。新聞やテレビをきっかけに出かけることもある。家族と会話して自宅に出かける人もいる。玄関付近に出て日光浴など、個々に合わせた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭・貴重品については個人で持っている場合はご家族に紛失する可能性があることをご了承いただいています。また外出先での個人的な買い物は立替との承諾を頂いています。外出時のジュース・菓子・入場料などは今のところは会社負担です		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという方には施設の電話の子機を利用していただいています。家族に伝言などを頼まれることがありますのでその場合はご家族の返事を必ず伝えていきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に考慮しながら良い雰囲気が保てるような環境を整備しています。	玄関は日当たりがよく、日向ぼっこを楽しんでいる。写真の入った職員紹介など情報発信の掲示がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の座席のほかに、自由に座れるスペースを確保しています。また昔の知人同士が入所している場合がありますのでお話しできる機会を設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた寝具やタンスなどには仏壇を持って入所される方もいます。この身体状況に合わせてベットや家具の配置、ご家族様との関わりを示す物など飾っています。無機質にならないよう改善しています。	部屋のサッシが吐き出しになっていて、清掃が行き届いている。光や空気の入れ替えは、職員が行い、家族写真やソファやテレビなど家から持ってきたものでレイアウトされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所座席の工夫、文字での記載、手すりの設置、自動水道などあります。個々に出来ること苦手なことが違いますので、把握できるよう努力し、環境を整え自立につながるよう支援しています。		